

震宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第152号

令和7年10月4日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山306

公益財団法人高野山文化財保存会

高野山霊宝館

電話0736-56-2029

URL <https://www.reihokan.or.jp>



「和歌山県指定文化財 崇源夫人五輪石塔 蓮花院 崇源院は、徳川幕府2代將軍徳川秀忠の正室（お江）である。寛永4年（1627）、嫡男忠長が慈母追善のために造立した。本石塔は、日本で一番高大なもの（総高6.6メートル 台石方2.75メートル）で、「一番石塔」と呼ばれている。

利用案内

■開館時間 9時00分～17時00分

■休館日 年末年始

（展示替えに伴う臨時休館あり）

■拝観料 大人 1300円

高・大学生 800円

小・中学生 600円

高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。

（住所記載の証明書、または学生証提示要）

■専用駐車場あり

令和7年度 秋期企画展

「高野山奥之院～弘法大師信仰の始まりと広がり」

令和7年10月11日（土）～
令和8年1月12日（月・祝）

第152号 目次

- 秋期企画展のご案内……………2～3
- 収蔵品の紹介121……………4
- 博物館実習の報告……………5
- 特集高野山……………6～7
- 高野山霊宝館からのお知らせ……………8



高野山霊宝館
公式Instagram
QRコード

毎月21日（弘法大師の日）ご来館の方にプレゼントを差し上げます。

令和7年度 秋期企画展

「高野山奥之院―弘法大師信仰の始まりと広がり―」

令和7年10月11日(土)～令和8年1月12日(月・祝)

前期 令和7年10月11日(土)～11月24日(月・祝)

※令和7年11月10日(月) 関西文化の日 拝観料無料

※令和7年11月17日(月)～11月22日(土)は館内工事のため休館

後期 令和7年11月26日(水)～令和8年1月12日(月・祝)

※令和7年12月28日(土)～令和8年1月4日(日)は年末年始につき休館



重文 金銅宝篋印塔 (南保又二郎納骨遺品) 金剛峯寺



重文 高野山奥之院出土遺物 (比丘尼法葉経塚出土品) 金剛峯寺
種字金剛界曼荼羅・種字胎藏生曼荼羅 (胎藏生曼荼羅のみ後期)



重文 高野山奥之院出土遺物 (比丘尼法葉経塚出土品) 金剛峯寺
漆塗木製内容器・銅製経筒・陶製外容器

承和2年(835)、弘法大師空海が高野山の奥之院御廟に入定(永遠の瞑想に入ること)して以来、弘法大師を慕う人々の信仰はさまざまな形で展開されます。

弘法大師信仰は、高野山が大日如来を中心とする両界曼荼羅の世界であるという考えを基に、釈迦の入滅から56億7千万年後、弥勒菩薩が下生する都率浄土信仰や、阿弥陀如来の阿弥陀浄土(西方極楽浄土)信仰が重なり合って成り立ち、多様な形で、連綿と今日に伝えられています。本展覧会では、これらの根幹を成す納骨信仰に焦点を当て、さまざまな文化財を紹介し、その変遷を辿ります。

主な展示品

考古

重文 高野山奥之院出土遺物 (比丘尼法葉経塚出土品)

供養目録、陶製外容器、銅製経筒、漆塗木製内容器、

種字胎藏界曼荼羅、種字金剛界曼荼羅、

般若心経・阿弥陀経、経帙、妙法蓮華経・観音経 金剛峯寺

重文 奥之院出土遺物(御廟および周辺出土品)・灯籠堂および周辺出土品)

金銅阿弥陀如来形納骨器、瀬戸小壺納骨器、

金銅製納骨器、青磁四耳壺、青磁水注、青磁合子 金剛峯寺

重文 金銅宝篋印塔(南保又二郎納骨遺品) 金剛峯寺

奥之院探検ツアー

奥之院一の橋から弘法大師御廟までを歩き、奥之院の各所を巡ります。
10月15日(水)、11月15日(土) 14時30分から約1時間30分
参加費については、HPにてご案内しています。

ミュージアムトーク

秋期企画展の見どころを解説します。
10月11日(土)、11月5日(水) 14時から約1時間
参加費無料。ただし拝観料必要。



紺綾地錦弘法大師像 金剛峯寺



六字名号 宝寿院



重文 兜跋毘沙門天立像 龍光院



国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔 円通寺

彫刻

- 重文 深沙大將立像・執金剛神立像
- 重文 毘沙門天立像(胎内仏)
- 重文 不動明王立像(千手院観音堂旧在)
- 重文 兜跋毘沙門天立像
- 金剛峯寺
- 金剛峯寺
- 龍光院

絵画

- 重文 阿弥陀如来像
- 成福院(前期)

書跡

- 国宝 続宝簡集 卷8 治阿弥陀仏舍利奉納状
- 国宝 紺紙金銀字一切経(中尊寺経)
- 金剛峯寺(後期)
- 金剛峯寺

- 重文 紺紙金字一切経(荒川経)
- 金剛峯寺
- (前後期入替)

- 重文 地藏菩薩立像 附像内納入品のうち 結縁交名
- 成蓮院
- 宝寿院

六字名号

工芸

- 紺綾地錦弘法大師像
- 紺綾地錦緯錦阿弥陀如来像
- 金剛峯寺
- 金剛峯寺

民俗

- 国登録有形民俗文化財
- 高野山奉納小型木製五輪塔
- 円通寺

※期間中、一部展示替えを行います。
※文化財の状態により、展示品が変更になる場合があります。

次回展覧会予告

令和7年度 冬期平常展

「密教の美術くしあわせのカウント」

令和8年1月17日(土) ～ 4月12日(日)

六字名号

室町時代／宝寿院蔵

六字名号とは、阿弥陀如来を主尊とする、来世での安寧を願う阿弥陀浄土信仰において、お唱えする「南無阿弥陀佛(仏)」という題目(御名号)を記したものです。御名号の文字そのものが阿弥陀如来であり、そのため蓮華座の上に乗った形で描かれます。

高野山では、弘法大師空海に対して「南無大師遍照金剛」とお唱えしますが、鎌倉時代には仏教界全体で宗派を超えて阿弥陀浄土信仰が広がりました。高野山でも「南無阿

弥陀佛」と念仏を唱える僧侶(聖)が集まり寺院を構え、高野山は弘法大師が説かれた弥勒浄土と併せて、阿弥陀浄土(西方極楽浄土)でもあり、盛んに唱導する時期がありました。

現在、高野山には、「小田原通り」という地名がありますが、これは、この付近に「小田原聖」と呼ばれる阿弥陀浄土信仰を唱導する聖が住む拠点があったことによります。さて、この絵画の六字名号の文字は黒色ですが、墨書されたものでは

ありません。長い黒髪を撚って糸とし、髪繻、すなわち絹本に髪糸で刺繍した「繻仏」と呼ばれるものです。このような繻仏も、阿弥陀浄土信仰の広がりに伴い大流行し、施主らの所縁の寺院や霊場に納められました。

高野山は、平安時代(12世紀)以来、弘法大師を慕い、人々が死後に自身の骨を納めた納骨信仰の山として今日にいたりますが、納めるものは骨に限りません。髪の毛、爪などの身体の一部は、死後に限らず、

生前にも納められました。これらを「仏舍利」といいます。また、身体の一部を納められない場合は、経典を書写して納経、あるいは仏像を造立し、これらを自身の分身、身代わりとして納めました。これらを「法舍利」と言います。

本品は、阿弥陀浄土信仰と弘法大師信仰のもと、生み出された興味深いものです。(鳥羽正剛)

収蔵品の紹介 121



六字名号

博物館実習の報告

この度、令和7年度も、各大学で博物館学芸員資格の取得を希望する博物館実習生を受け入れました。

大学生・大学院生・科目履修生の4名を受け入れ、令和7年8月19日(火)から22日(金)までの4日間、霊宝館内において、以下のとおりカリキュラムを実施しました。

19日の午前は、平成大宝蔵前室に参集し、大森照龍霊宝館長、赤堀暢泰課長の挨拶とオリエンテーションの後、毎月19日に館内で執り行われる月並法会に参列してもらい、高野山霊宝館に収蔵している仏像、仏画などは文化財であるが、お性根(魂)が入っていることから、信仰の対象でもあることを受講生に説明しました。

法会後は、大森館長を講師として、高野山の信仰背景などの講義の後、



①月並法会の参列



③書籍の調査 (調書作成)



②絵画の取り扱い



⑥紐箱の取り扱い



④彫刻の運搬



⑦拓本採取



⑥西塔の見学

絵画を用いて、取り扱い方法の実習。午後からは、収蔵庫(平成大宝蔵)の彫刻室の見学、展示室(本館・新館)の説明(展示方法、照明、保存環境など)を行い、その後、書跡の歴史的特徴、製作上の構造に関する講義の後、書跡(卷子、折本、冊子)を用いて、取り扱い方法の実習を行いました。

20日の午前は、平成大宝蔵にて、彫刻の歴史的特徴、製作上の構造に関する講義の後、仏像を用いて、取り扱い方法と梱包実習。午後からは彫刻の運搬方法を実習。その後、書跡を用いて調書の作成。引き続き、工芸品に関する講義の後、取り扱い方法の実習。また、奥之院の発掘調査で出土した蔵骨器などの考古資料の講義、収納箱の取り扱い、梱包方法の実習を行いました。

21日の午前は、史跡金剛峯寺境内の伽藍地区、さらにその史跡地にある国宝、重要文化財に指定、国登録有形文化財に登録された、建造物の説明を行いました。その後、これらの建造物を火災から守るために消火栓やドレンチャージャーなどが設置されている

22日の午前は、3日間の復習として、絵画、書跡(卷子)の取り扱いを復して行い、技術の習熟度を上げました。午後からは、平成大宝蔵に収蔵する主要な指定文化財の収蔵方法や取り扱い方法の講義を行いました。閉講式では、大森館長の総評、赤堀課長の閉講の挨拶があり実習の講義を終了しました。

4日間という短期間でしたが、実習生には、普段は展示ケースのガラス越しでしか見ることでできない、さまざまな種類の貴重な文化財を、手にとって観察し、文化財の取り扱いの実践的技術を学んでいただきました。

実習生には、この実習体験を進路選択、今後の人生に生かしていただくことを心より願っています。

特集高野山

書跡 「秘記高野山三鈷松」 宝寿院



秘記高野山三鈷松 宝寿院



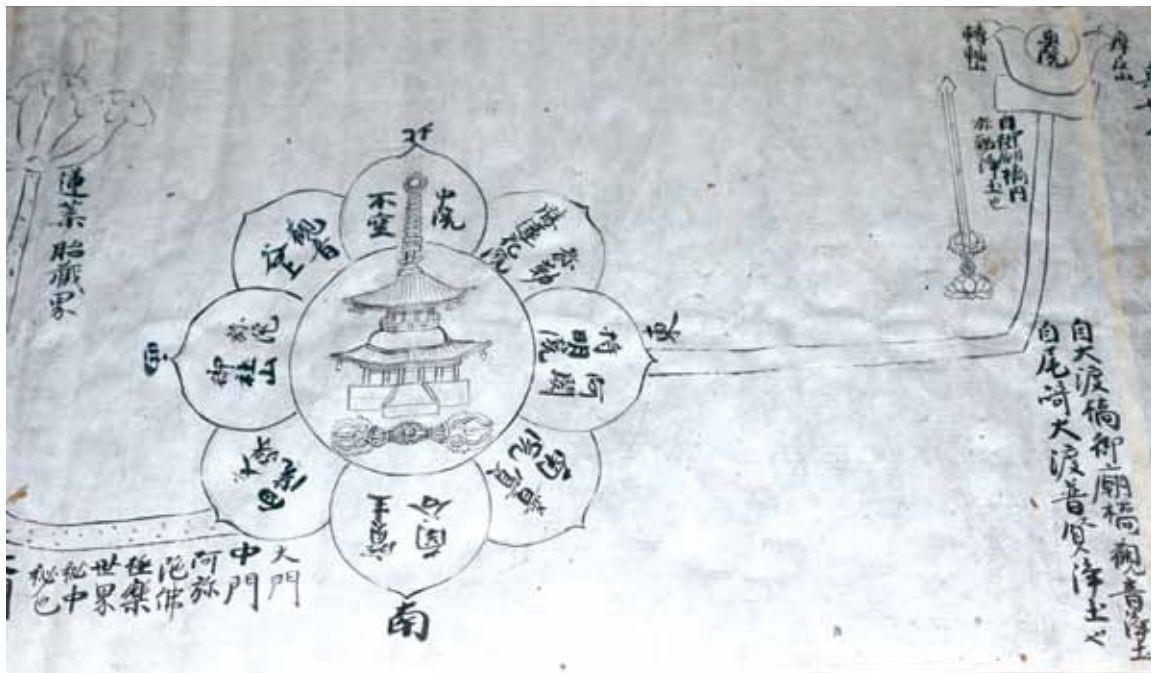
飛行三鈷杵光背 金剛峯寺



飛行三鈷杵内箱 金剛峯寺

本書は、高野山宝寿院よりお預かりし
ています。「宝寿院聖教」類の一品で、
二紙を繋ぎ折りたたまれていました。書
かれた時期は寛文二年（一六六二）です。
まず一紙目にはタイトルの秘記高野山三
鈷松について書かれています。

高野山霊宝館館長 大森 照龍



高野曼荼羅 宝寿院

弘法大師空海が中国唐より「密教を広めるに相応しいところがあれば教え給え」と願いを込め、投擲した三鈷杵がのつていた高野山三鈷松の由緒書です。本書によれば、唐（中国）より投げた三鈷杵が日本中を周り、七日間かけ飛んで高野山三鈷松に掛かっていたと説明されています。また三鈷松の最極秘として「三鈷即大師 松即明神 明神即大師 大師即松」との教えを説明しています。

飛行三鈷杵は、先のように大師によって中国唐より投擲され、高野山に届きました。本三鈷杵は大師から高野山第二世真然大徳に授けられ、中院別当空観僧正に受け継がれ、雅真僧正を経て仁海（九五四〜一〇四六）に至り、以後高野山御影堂に奉安されたと伝えられています。また寛治二年（一〇八八）、白河上皇が高野山行幸のおり持ち帰り、嵯峨二尊院の湛空に伝えられたが、湛空の見た瑞夢によって高野山に戻されたとも伝えられています。

本三鈷杵は二重の箱に護られており、中箱には黒漆で塗られた蓋部分に松を金と銀で艶やかに描いています。また外箱は朱に塗られ箱底辺には木食応其により箱の寄進なされたことが墨書されています。

す。さらに同時期の制作と考えられる金銅製の舟形光背が入っています。光背裏側には、中央に大字で「奉寄附三鈷後光宝聚院春栄」、光背蓮華部に小字で「南山鋸師 藤四郎」と奉納者・制作者が毛彫りが施されています。水原堯榮僧正が書かれた「弘法大師遠諱史」によると五十年ごとの御遠忌に、御影堂にて四方に網を張り三日間拝見させたとき書かれていました。多分そのような特別な時に光背を立て、そこに飛行三鈷杵をもたせかけたと考えられます。

さてもう一紙には通称「高野曼荼羅」と呼ばれる絵画が書かれており、高野山登山道町石出發地・慈尊院から胎藏曼荼羅の諸尊に導かれ（町石に胎藏仏の種子）、大門〜中門の間は阿彌陀の浄土。伽藍を通り尾崎弁天（蓮花院裏山）（一乗院遙拝所）〜一之橋まで普賢浄土。一之橋から御廟橋まで観音浄土。御廟橋よりは弥勒浄土で御廟が金剛界曼荼羅諸尊になります。それは高野に入ればあらゆる浄土にいけ、未来永劫の安息を賜る場所であると高野詣でを推奨し説かれています。このように「秘記高野山三鈷松」には、高野山の開山と登山の功德がまとめられています。

高野山霊宝館からのお知らせ

◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説)を、左記のとおり開催いたしました。

- 7月12日(土) 講師 近藤堯寛師
- 8月2日(土) 講師 佐藤心憧師
- 9月6日(土) 講師 月原真人師



ミュージアム法話開催風景 (月原真人師)

今後の開催予定

- 10月18日(土) 講師 今井隆照師
- 11月8日(土) 講師 辻 雅榮師
- 午後1時より約45分

●ミュージアムトーク

7月21日(月)・祝、9月15日(月)・祝に、当館職員によるミュージアムトークを開催しました。

◎重要文化財指定記念特別展

「大伽藍」

●大伽藍探検ツアー

6月28日(土)、当館職員による大伽藍にある建造物の案内を実施しました。

◎博学連携事業 高野山霊宝館・高野山高等学校共催金剛峯寺探検ツアー&ミュージアムトーク

ミュージアムトーク

8月18日(月)高野山高等学校の通信教育課程の生徒を対象に、当館職員による案内で、金剛峯寺境内と徳川家霊台の重要文化財の建造物を巡り、また当館においてミュージアムトークを実施いたしました。

◎博物館実習

8月19日(火)から22日(金)までの4日間、博物館学芸員の資格取得を目指す、高野大学と筑波大学の大学生・大学院生・科目履修生の受け入れをしました。

◎展覧会予定

○冬期平常展

「密教の美術

〜しあわせのカウンツ〜」

令和8年1月17日(土)〜4月12日(日) 出陳品

- 重文 八字文殊曼荼羅図 正智院
- 重文 八宗論大日如来像 善集院
- 未指定 銀製群雀七宝花瓶 金剛峯寺

○館外出陳情報

●大阪市立美術館

特別展「NEGORO 根来〜赤と黒のころ〜」

令和7年9月20日(土)〜11月9日(日) 重文 丹生・狩場明神像 2幅 金剛峯寺

未指定 筒型厨子入愛染明王小像

(五指量愛染明王)1軀 金剛峯寺

●大和文華館

特別展「みやこの舞楽〜舞楽面と舞楽図でたどる芸能の美〜」

令和7年10月4日(土)〜11月9日(日)

未指定 天野社舞楽曼荼羅供莊嚴

図 金剛峯寺

●サントリー美術館

特別展「NEGORO 根来〜赤と黒のころ〜」

令和7年11月22日(土)〜

令和8年1月12日(月)・祝

未指定 筒型厨子入愛染明王小像

(五指量愛染明王)1軀 金剛峯寺

◎密教・仏教が自宅で学べる

『高野山大学 社会人向けコース』

高野山大学では、社会人の皆様の人生のさらなる学びを応援するオンラインで受講可能な密教文化コースを開設しております。空海、マンダラ、お遍路、歴史など幅広い学びを、続けやすい学費にてご案内しております。詳細は大学HPをご確認ください。



高野山大学コース広告

友の会 会員募集

〈年会費〉

- 一般会員 (個人) 3,000円
- 賛助会員 (法人) 30,000円

キャッシュレス決済手続きが可能となります。入会希望の方は下記から申し込みいただくか、霊宝館までお問い合わせください。

会費ペイ会員登録用URL・QRコード

https://www.kaihipay.jp/forms?form_code=9807367488232707



大学 HP QRコード